

新潟や山形・鶴岡で活動する劇団やダンサーの舞台を目の前で見られる小さな演劇祭。一演目約20分。国指定有形文化財、旧小池薬局恵比寿屋本店2階で開催！

人生を
楽しもう

舞台に
触れて

演劇

ダンス

全力演劇「女の子ビュッフェ」
加藤由美 「森羅万象」
塩会 「結婚式しようよ」
菊地将晃 秦玉美
「そこにあるもの/在ったもの」
劇団@nDANTE
「かくしてアサヒはかけた」

遊劇祭2023

○日時:7月1日(土)14:00
18:00

2日(日)14:00

開場は30分前(各回35名定員)

○場所:旧小池薬局恵比寿屋本店

鶴岡市本町1-6-88

まちづくりスタジオ鶴岡Dada向い

○主催 遊劇祭2023実行委員会
表現集団エッグ・プロジェクト

○後援 鶴岡市教育委員会
まちづくりスタジオ鶴岡Dada

○協力 佐久間利兵衛観光農園
鳥海すまいるファーム

演目と出演者



演劇プロジェクト全力演劇（山形） 「女の子ビュッフェ」

作:伊藤穂（劇団のら） 演出:吹雪ビュン

出演 早紀:新関麻美 真奈美:大橋茉歩 和歌子:皐月れみ

あらすじ：『女の子ビュッフェ』
久々の再開を喜ぶ3人の女子。
恒例の女子会を楽しむべく意気揚々とエレベーターへと乗り込むが、、、予期せぬややこしい事態が判明！
エレベーターもこの恋も一体どこへ向かうのか！？
予測不能の30分！テーマは混沌と乱闘？！

「演劇大学 in やまがた」をきっかけに演劇に対する情熱に火がつき、「もっと演劇を！もっと全力で演劇がしたい！」というあまりにも純粹すぎる動機によって、演劇大学の実行委員と参加者によって2017年に結成された演劇プロジェクト。企画の都度仲間を募り、作品ジャンルにこだわらず山形市を中心に活動している。演劇を祝祭と考え、参加者全員が出来る限りの全力で作品作りにお祭り騒ぎで取り組んでいる！

加藤由美（山形） 「森羅万象」

「むだ花」
生は永久の闘いである
自然との闘い 社会との闘い 他の生との闘い
永久に解決のない闘いである

闘え
闘いは生の花である
みのり多き生の花である
自然力に屈服した生のあきらめ
社会力に屈服した生のあきらめ
かくして生の闘いを回避した
みどりなき生の花は
咲いた
--- 「むだ花」大杉栄『近代思想』一卷十一号 1913年

♪Que sera・sera・・・♪

YUMI Katou

舞踏家/振付家 ダンススペース主宰。幼少からクラシックバレエを学び、ニューヨークのダンススタジオに短期長期の留学を繰り返してきた。ジャズダンス、エアロビクス、健康体操の指導を経て、現在は学校教育や福祉の現場で身体表現を指導。自身もコンテンポラリーダンス作品の振付けを手がけながら、国内外の山河、建造物で場踊りを繰り返し、その瞬間のダンスを切り取っている。山形市在住。



塩会（新潟）

「結婚式しようよ」

作:小林葉月 演出:塩会



出演 吉田わかな

初めまして。新潟で飲み会7演劇3で活動しています『塩会』と申します。7年前まだ知人同士だった4人で女子会をしたのがきっかけで意気投合しSNSのグループ名がそのまま団体名になりました。まさかメンバーが増えたり、3度目の新潟劇王で優勝するとは。ましてや、山形に呼んで頂ける日がくるとは思いもしませんでした。ありがとうございます。

本日公演する『結婚式しようよ』は昨年第2回新潟劇王に参加するために創作。さらにえんとつ玉というイベントにて役者を変更。演出も手直しをしました。今回もえんとつ玉からさらにパワーアップした結婚式しようよを引っさげて山形へやってきました。

結婚式に憧れて真っ白いドレスにときめいた彼女は自分のために式を挙げようと思いつきます。

白いチャペルは？ 素敵なブーケは？？ どうぞご覧下さい。

菊地将晃・秦玉美（鶴岡）

「そこにあるもの／在ったもの」

現在、エビスヤビルと呼ばれ、人々が行き交う場になった、旧小池薬局恵比寿屋本店にあった営みや暮らしに想いをよせた作品です。

過去の積み重なりである現在とその先にある未来。

過去も未来も、どうしようもないくらい隣り合っているのに、決して重なることはない。

その狭間にある現在は曖昧で、そもそも存在するののかも疑問だ。

それでも、私たちはその臍げな現在のなかで在る。 何度足を運んでも、その存在感と積み重ねてきたであろう歴史に少し圧倒されてしまうこの場所から、あるのかもわからない現在と明確にそこにあった過去の関係を作品に込めました。

生まれた土地も過ごしてきた時間も経験もまるで違う同い年のふたり。 ストリートダンスをベースとする菊地とクラシックバレエをベースとする秦、まるでちがうダンスの中で暮らしているふたりの初舞台。

菊地将晃 toall代表/Kichin'Dance Fam主宰 北海道出身。

ストリートダンスをベースに、身体がもつ表現の有様をヒトやモノ、コトとの係わりの中から探す活動をしている。

秦 玉美

東京都出身 2歳よりクラシックバレエを始める。2013年に東京から鶴岡に移住。2017年にバレエスクールサミュゼ開設。幅広い分野で活躍するアーティストとコラボレーションしている。

劇団@nDANTE（山形・新潟）

「かくしてアサヒはかけた」

作・演出:石川kenjiro-

出演者 益川真由葉 石川kenjiro-

調べたら、初演は4年前。その後山形、名古屋、新潟といろんな場所で上演してきた、劇団にとっても大事な作品です。ちょっとずつver.が違います。山形ゆかりの劇作家、渡辺えり氏からも好評いただいた快作をどうぞご覧ください。カニのハサミは山形に拠点を置くいちろう舞台様に製作いただきました。ありがとうございます。もう絶対に壊さないように気を付けます。

2010年旗揚げ。真摯な芝居作りをモットーに、普遍性のあるテーマを王道かつサービス精神たっぷりで創作していきたい。遠距離恋愛ならぬ遠距離演劇をものもしない創作スタイルと、健気と慈愛と愚かさにもみれた作風が「バカ（真面目）」「誠実」「愛がある」と観客より評される。劇団名の由来となったアンダンテとは音楽用語で【歩くような速さで】の意。その名のとおり、少しずつ、でも確実に、成長を続けている劇団です。2022年5月の第2回新潟劇王優勝。

音響:三浦和宏 照明:永井誉楠
舞台補助:益川真由葉 石川未来

